

ヘミングウェイゆかりの地を訪ねて

高野泰志

第1回 JFKライブラリー

今年の2月にボストンのJFKライブラリーを訪ねてきました。もちろんお目当てはヘミングウェイ・コレクション。ヘミングウェイの大半の原稿、手紙類、その他さまざまな書類が保存されたコレクションは、ヘミングウェイ研究者なら誰もが一度は行ってみたいと思っているでしょうし、実際多くの方々がすでに訪問されているのではないかと思います。今回はまだJFKライブラリーに行ったことがない方々のために、訪問記を掲載してみたいと思います。私も出発前に今村会長からいろいろと教えていただいたおかげで安心して行って来られました。これから出向こうと考えておられる方々にとって、以下の文章が少しでもお役に立てればと思っております。

1. アポイントメント

まずはヘミングウェイ・コレクションのキュレーターであるSusan Wrynnさん宛（Susan.Wrynn@nara.gov）に訪問の日時と目的を連絡し、アポイントメントを取ります。これをやっておかないとヘミングウェイ・コレクションどころかライブラリー自体に入れてもらえない可能性もあります。実際に私が入り口で入館手続きをとっているときに、アポイントメントを取っていない学生らしい人がやってきましたが、あらかじめ約束が必要であることをさんざん説教されていました。結局ライブラリーの人の好意で中に入れてもらえたようですが、おそらくライブラリーの中にあるさらに警備の厳しいヘミングウェイ・コレクションには入れて

もらえないのではないのでしょうか。ライブラリーは月曜日から金曜日の9時から4時半までで、祝日も休館になります。短期間しか滞在できない人はあらかじめ向こうの祝日もチェックしておいた方がいいでしょう。私はこれをしなかったせいでまるまる1日無駄にしまいました。

2. 空港からライブラリーへ

さて、無事約束を取り付けたらいよいよ出発ですね。ボストンのローガン国際空港からJFKライブラリーのあるマサチューセッツ大学までの行き方について説明します。もちろんまずはホテルにチェックインという方がほとんどだと思いますが、その辺は適当に経由地を考えて読み替えてください。

空港からボストンの中心地までは地下鉄を使うのが便利です。空港からは地下鉄の駅に向けてシャトルバスが無料で運行されていますので、到着ターミナルでバス停を探してバスに乗ってください。この際、地下鉄の駅に向かわないバスもありますので、注意が必要です。ターミナルによって止まるバスは異なりますが、22, 33, 55という番号のついたバスであれば地下鉄まで行ってくれます。

地下鉄のAirport駅に着くとそこからはボストン市内の大半にアクセスできます。Airport駅は5種類ある路線のうちのひとつ、Blue lineの駅です。まずは改札近くの受付で切符のかわりになるトークンというコインを購入します。1.25ドルで購入しますが、

これ1枚で郊外の一部地域を除いてほとんどの場所にまで行けてしまいます。空港から町の中心地までわずか100円少々で行けるというのは日本では考えられない話ですね。

トークンはすべての駅で売っているわけではないので、何日か滞在する予定の人はここで何枚かまとめて買っておいた方がよいでしょう。

トークンを買ったら改札に投入して中に入ります。INBOUNDとOUTBOUNDという二つのプラットフォームがあります。基本的にすべての路線で、町の中心（Government Center）に向かう方向をINBOUND、反対方向をOUTBOUNDと呼んでいます。もちろんINBOUNDへ。



JFKライブラリーのあるマサチューセッツ大学はRed lineの駅なので、途中でこの路線に乗り換えなければなりません。3つ目の駅、Stateで一度降りてください。ちょっと面倒ですが一度Orange lineに乗り換えます。SOUTH BOUNDのプラットフォームから電車に乗ってすぐ隣のDowntown Crossingで降ります。そこからRed lineのOUTBOUNDの電車に乗ってJFK/UMass駅で降ります。ここからライブラリーまでふたたびバスです。



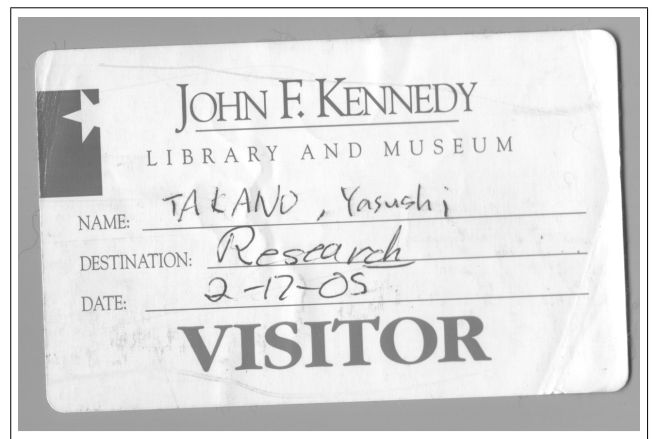
駅からマサチューセッツ大学までのシャトルバスも無料で運行されています。すぐ隣に普通の路線バスも走っていますので間違えないでください。シャトルバスは2種類で、そのうち2番の番号の着いたバスに乗ってください。バスは午前8時から20分おきに運行されています。15分ほどバスに乗っていると、海に面したところに白と黒のモダンな建物が現れますが、それがJFKライブラ

リーです。

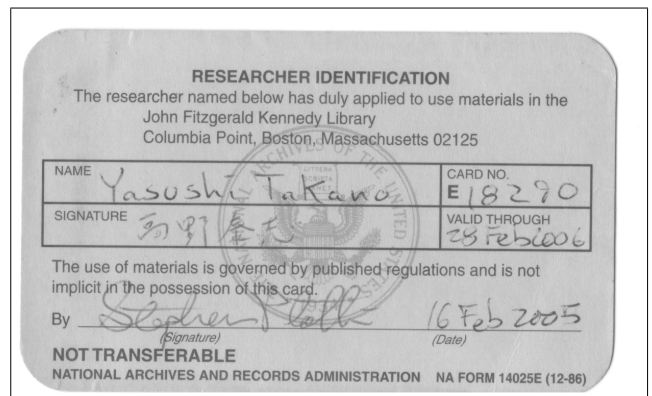
3. 入館

ここからは実際に行ってもらえば、向こうの人が説明してくれますが、一応念のため。入り口を入ると右側がジョン・F・ケネディに関するミュージアムになっています。こっちは結構よくできていて面白いです。最初に映画を見せられてケネディについての予備知識を仕入れた後に、60年代の町並みやホワイトハウスの内部を再現した会場にさまざまな展示があります。私は結構楽しみました。

で、ライブラリーは左手です。ミュージアムショップを抜けてまっすぐ歩くと警備員が立っていますので、名前を名乗ってライブラリーにアポイントメントがある旨伝えてください。パスポートなど写真のついた身分証明書を見せ、入館証のシール（下の写真です）をもらいます。これを胸に貼り付けて警備員についてエレベーターに乗せてもらってください。ちなみにこの入り口より少し先がカフェテリアになっていて、ライブラリーで食事をするときはそこに行くことになるでしょう（まずいです!!）。しかしライブラリーに戻るとき、警備員が職員の持つ鍵がなければエレベーターは上の階に動いてくれません。



上の階まで上がるとライブラリーのスタッフが待ちかまえていて、細かい注意点などを説明してくれます。鞆などはすべてロッカーに入れ、カメラやコピーのとれる機器などは持ち込むことが出来ません。ボールペンも禁止で鉛筆のみ使用可能ということでした。ノートパソコンを持っている人はそれを持っていくのが一番よいでしょう。初日はここでResearcher identification card（下の画像に表示されているやつです）を作ってもらい、名簿に名前を書き入れます。



必要なものを持ったらそこからさらに上の階まで階段で上がります。これでいよいよヘミングウェイコレクションに入ります。中の半分近くの場所を占めるスペースには、ヘミングウェイの所

有していた家具が並べられ、本棚にはヘミングウェイについて書かれた書籍がすべてコレクションされています。ヘミングウェイの原稿や手紙はそれとは反対側に箱に詰められて整然と並んでいます。入館者は海を見下ろす（絶景です！）窓際の机を利用し、目録を見ながら必要な原稿を持ってきて閲覧することになります。



基本的にヘミングウェイの小説作品のコピーは一切禁止されています。しかし手紙類などはコピー可能で、ライブラリー入り口のスタッフに頼んでコピーカードを借り、その場でコピーをとることが出来ます。コレクションルームにいる間はおよそ1時間に一度くらいの割合で誰かが様子を見に来ます。おそらくは不正なコピーなどを防止する意図なのでしょうが、厳重な割には手紙をコピーに行ったときも、何をコピーするのかの確認などいっさいされませんでした。原稿のコピーもやろうと思えば出来そうですが、もちろん大量にコピーをしていればそのうち発見されるでしょうから、少量であれば悪いことを考えずにおとなしく自分で写し取ったほうがよいでしょう。



4. おわりに

最初のアポイントメントさえ取っておけば、向こうの人がかなり親切に説明してくれますので、それほど迷うことはないでしょう。実際キュレーターのSusan Wrynnさんを始め、ライブラリーやミュージアムの方たちは皆さん非常に親切で、とても気持ちのよい訪問になりました。アメリカに行く機会がありましたら、是非とも立ち寄ってみてはいかがでしょうか。

さて、この「ヘミングウェイゆかりの地を訪ねて」ですが、第1回などを書いてしまいましたが、果たして第2回はあるのでしょうか。オークパークにはかつて一度行ったことがあるのですが、もうさすがに何か書けるほど覚えていません。近々パリには行ってみたいと思っていますが、パリに関しては会長が本を出していますのでわざわざここで連載する必要もないでしょうし。そもそもヘミングウェイゆかりの地をあちこち訪ね歩けるほど裕福でもないのですが。いささか不安です。まあ第2回はあるかもしれないかもしれないということで、気長にお待ちください。



JFKライブラリーからみたボストン



JFKミュージアムの出口。なかなかすてきな景色です

エッセイ募集中

編集室では随時会員の皆様のエッセイ投稿をお待ちしております。「ヘミングウェイと私」というテーマで、また自由テーマで、編集室までお送りください。分量は一応800字から1600字程度としておりますが、それほど厳密に制限は設けておりません。紙面をより豊かにしていくため、ぜひとも皆様の投稿をお願いいたします。投稿は電子メールもしくは郵送で。

宛先：yasushi@iwate-pu.ac.jp

〒020-0193 岩手県滝沢村滝沢字菓子152-52 岩手県立大学看護学部 高野研究室宛